

【入選】

命の大切さと生きる力

荒尾市立緑ヶ丘小学校 4年 柴田 航翔

ぼくが1年生の時、熊本地しんがおきました。その時は、まだ小さかったので、よく分かりませんでした。でも、たくさんのひがいが出て、悲しい思いをした人たちが数多くいたことを、とてもおぼえています。

3年生の道とくの勉強で、はじめて「つなぐ」という本を読みました。「わたしの家族」という話をみんなで学習し、地しんのこわさや家族の大切さを学びました。

4年生になり、今度は「助かった命」を学習しました。大きなゆれが二度もあったましき町の人たちは、どれだけ大きなきょうふを感じたことだろうと、あらためて命の大切さを考えることができました。

ぼくは、「助かった命」を勉強して分かったことが2つあります。

一つ目は、生きることのうれしさです。この話の主人公は、夜ねている時にとつぜん大きなゆれがきて、こわくて声も出なかったそうです。もし、そばにお父さんたちがいなかったら、「わたし」の命は助かってなかったかもしれません。強いゆれの中でも「わたし」におおいかぶさり、命がけでわが子を守ったお父さんとお母さんは、とてもすごいと思いました。家や建物はこわれてしまい、四日間も車の中ですごした「わたし」は、とってもつらかったと思います。だからこそ、ひなん所にうつり友だちに会えた時は、とってもうれしかったと思いました。生きているから笑ったり遊んだりできるんだということに感しゃしたいです。

二つ目は、幸せについてです。ぼくの考える幸せは、家族といっしょにごはんを食べたり、笑ったりできることです。あたり前のことが本当の幸せなんだということが分かりました。ぼくも、とても大切な人が地しんなどでなくなったらとっても悲しいです。だから、大人になったらけいさつかんや消防士になりたいです。そして、家族やちいきの人たちを命がけで守りたいです。

この勉強を通して、つらいことや悲しいことはこれからもあるかもしれないけれど、あきらめずに仲間を守っていきたいと思いました。